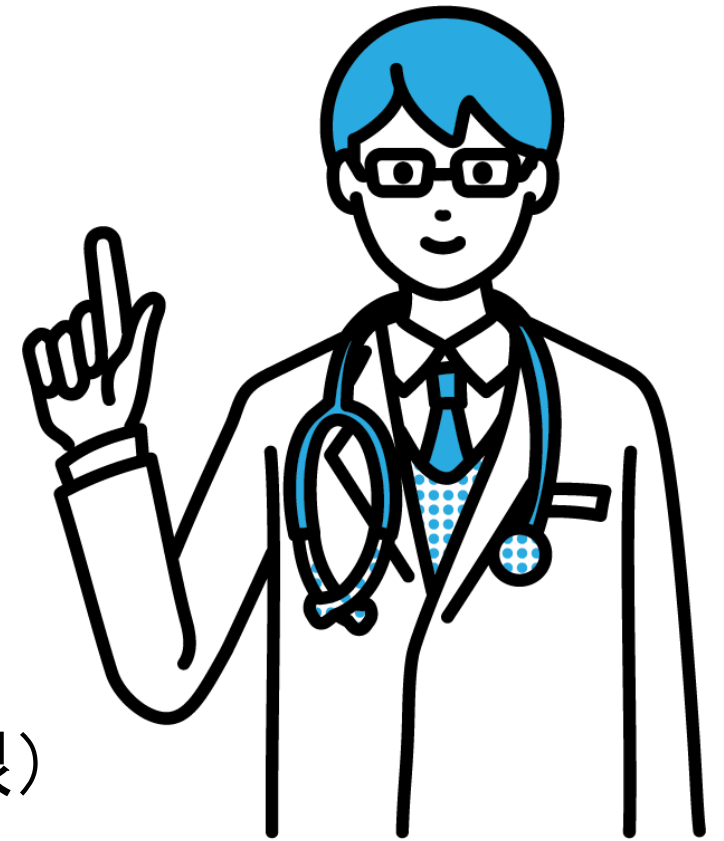


産業医面談の実際と オンライン面談

産業医面談と、関連する産業医の職務

- 産業医は**医師**ではある
- しかし事業所は**診療所**ではない
→その場で「**診断と治療**」は行う事ができない
- 専門家への**受診必要性の有無**を判断
- 必要に応じて**紹介状**を作成し受診させる
- 就労の可、不可の判断
- 就労可能な場合の**就労条件の調整**(就業制限)



産業医面談を行うタイミング

＜必須時＞

1. 健康診断結果が著しく悪く、面談が必要だと産業医が判断した時
2. ストレスチェックの高ストレス者が、産業医面談を希望した時
3. 休職者が復職しようとする時

＜行うほうが良い時＞

1. 上記のような各種面談後、定期フォロー
2. その他、必要だと思われた時



産業医面談、例1

—健康診断で糖尿病が見つかった事例



- 入職時の健康診断でHbA1cが11.4と高値を認めた
- 通院はしておらず、未治療の糖尿病として紹介状を作成、糖尿病内科専門医へ受診を促した
- 受診後、定期通院を開始
- 1ヶ月ごと産業医面談を行い、投薬治療により数値が落ち着いた事を確認

産業医面談、例2

ーストレスチェック高ストレス者となった事例

- ストレスチェックにて高ストレス者と判定、産業医面談希望あり
- 面談の結果、精神科受診の必要ありと判断
- 紹介状作成、受診
- うつ病の診断にて治療開始
- 休職せずに就労継続
- 月1回のフォロー面談を継続



産業医面談、例3

一胃がん術後、退職を防げた事例

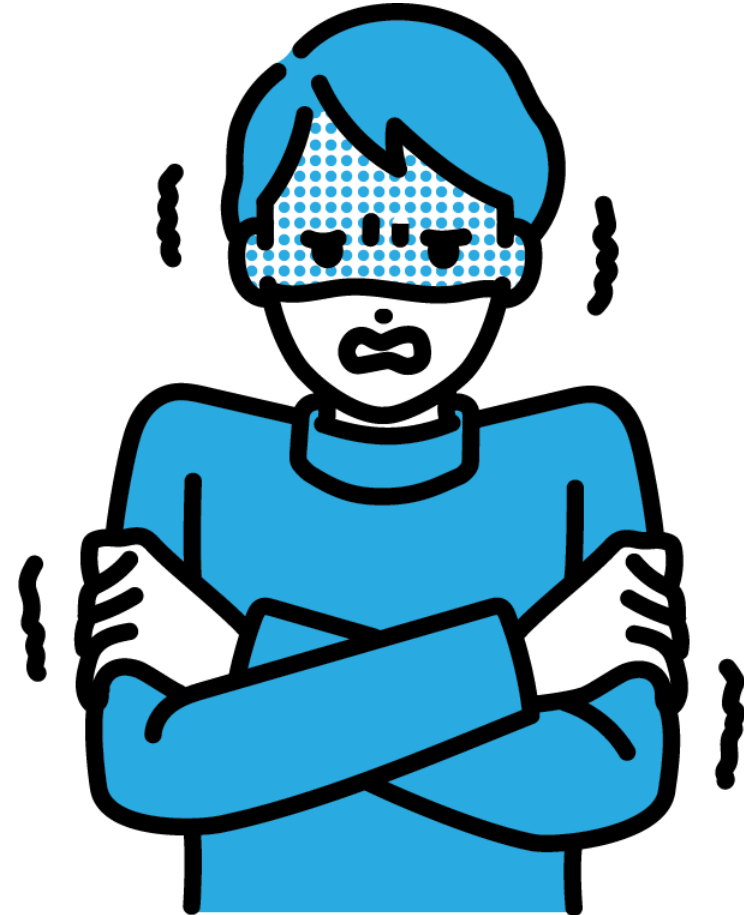


- 胃がんの治療にて休職
- 腹腔鏡下胃切除術を実施
- 退職を考慮していたが、産業医が就業制限を設け、労働条件が緩和されたため退職せず復職へ
- 重量物の持ち上げ禁止、ダンピング症候群予防の分食など
- 会社、社員にとってWIN-WIN

産業医面談、例4

—「自分がおかしい」と産業医を訪れた事例

- 本人による産業医面談希望あり
- 「服からお金が落ちている」
- 「車の運転で誰かを轢いてしまいそうだと思ってしまう」
- 面談の結果、精神科受診の必要ありと判断
- 紹介状作成、受診
- 妄想性強迫性障害の診断
- 投薬によって症状消失



TAKE HOME MESSAGE

産業医面談を
上手に活用しましょう

産業医面談、個人情報に配慮を



- 産業医面談の内容は個人情報
- 記録の取り扱いに注意
- 基本的に他者の同席不可
- 同席、情報共有は本人の許可が必要
- 可能なら許可をエビデンスとして残しておくのが、トラブル回避のコツ

産業医面談、記録の実際

1、紙(オフライン)

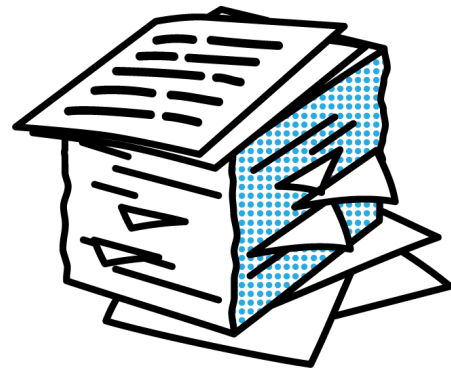
良い点

- コストが低い
- 誰にでもできる



悪い点

- セキュリティ△
- かさばる



2、システム(オンライン)

良い点

- セキュリティ○
- かさばらない



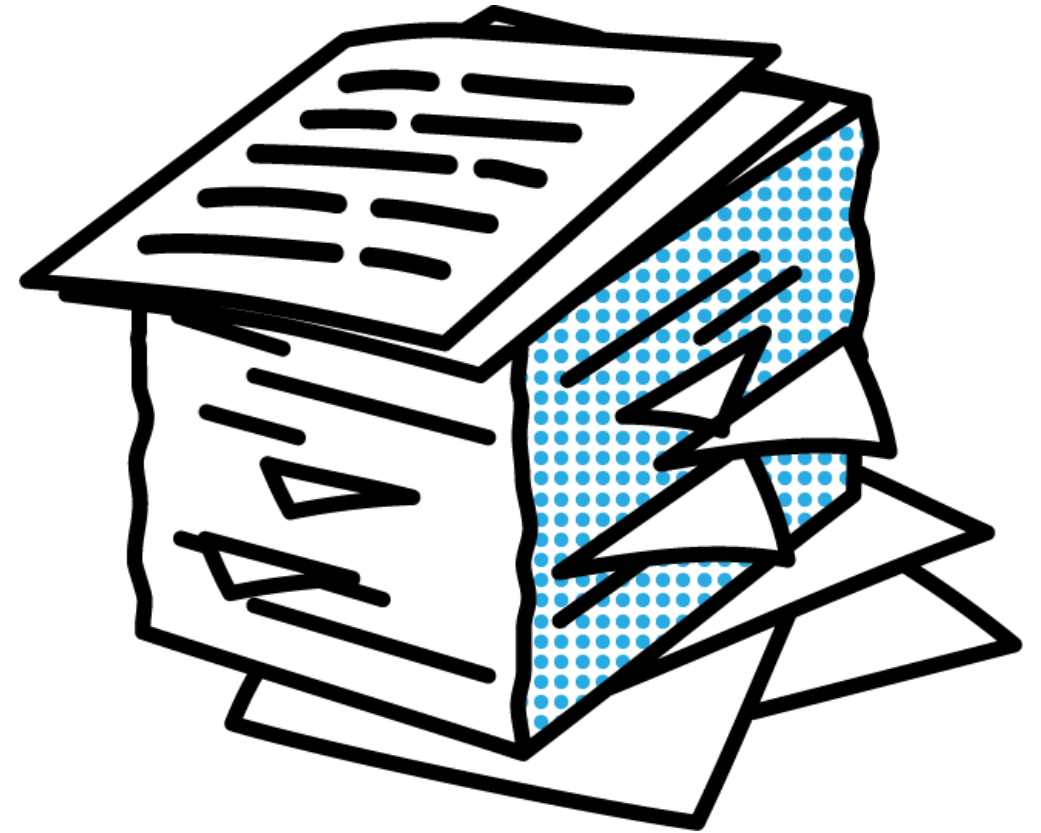
悪い点

- コストが高い
- 慣れるまで管理しにくい



産業医面談の記録、紙の注意点

- セキュリティが甘い
 - 鍵付きの倉庫が必要
 - 鍵の保管方法も考慮
 - 複数事業所の管理が難しい
 - 数が膨大になると管理できない
- 小規模の会社向き



産業医面談の記録、システムの注意点



- システムが複雑
→ 嘱託産業医が対応できない場合がある
- 結局時間がかかる
→ 追加で産業医のコストが増える場合がある
- 中～大規模の会社向き

TAKE HOME MESSAGE

個人情報に配慮
適切な管理方法を選びましょう

産業医のオンライン面談

- オンライン会議ツールで面談
- COVID-19流行で世に浸透

良い点：場所を問わない

悪い点：面談記録が取りにくい
(オンラインシステムの場合は問題ない)



オンライン面談で、海外の駐在員もフォロー



- 海外の駐在員は「医療における言葉の壁」に不安を抱えている
- 「日本語の話せる医師」を欲している
- 実際、何もなくても健康面の不安を話す事で精神的にもラクになったという声も
- 駐在員という貴重な人材を守るため、オンライン面談は有効

オンライン面談で、休職者も出社せず面談

- メンタル休職中は出社が難しい
- 出社によって症状が悪化する可能性があり、主治医から止められる場合も
- オンライン面談なら、出社せずに自宅から面談可
- 短時間でも意味はある
- 会社や人事・総務にとっても安心できる



保健師によるオンライン面談も有効



- 産業医ではなく**保健師（看護師）**によるオンライン面談も存在
- 「産業医の先生に相談するほどでは無い…」という方にオススメ

- 相談しやすい
- 面談のハードルが低い
→問題がマスクされにくい

保健師による面談のメリット・デメリット

メリット

- 相談しやすい、ハードルが低い
→取りこぼしを防げる
- 産業医より時間を確保しやすい
- 産業医よりコストが安い
→頻回利用も可能

デメリット

- その場で就業制限、紹介受診などの判断は不能
→重症と思われる事例は最初から産業医面談が無難
- 効果が測定しにくい



TAKE HOME MESSAGE

必要に応じて
オンライン面談を利用しましょう